ひかり

第66号
（令和3年9月）
浄光寺寺報

山形市八日町
2-4-35
(023)622-6010

令和三年　秋彼岸法要のご案内

記

九月二十日（月）彼岸入りの日

一．午前十時半　法話

二．午前十一時　法要



◎法要後におこわをお渡しいたします
◎卒塔婆のお申し込み・ご変更のある方は、お早めにご連絡下さい。（一本二千五百円）

《注意事項》

全国的にコロナウィルス流行の兆しが見受けられます。よって今後山形市に県や国の非常事態宣言や、まん延防止等重点措置が適用された場合は、**僧侶のみ**での法要へと切り替えます。ニュース等を事前にご確認いただきますようお願い申し上げます。

令和三年　宗祖報恩会式法要のご案内

記

十月十六日（土）　於　玄妙寺

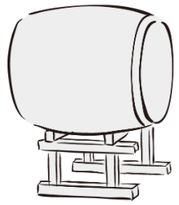
一．午前十時半　会式法要

◎法要後にお赤飯をお渡しいたします
◎日蓮聖人へ報恩感謝の卒塔婆を建立される方は事前にご連絡ください（一本二千五百円）



本年の浄光寺・玄妙寺合同宗祖報恩会式法要につきましてご連絡いたします。昨年同様、法要後の懇親会及び催し物の開催は見送らせていただき、会式法要のみを執り行います。

残念ながら新型コロナウィルスの脅威未だ収まらず、今年も日本一の芋煮会などの中止決定が相次いでおります。懇親会の開催は控えなければなりませんが、法要につきましては間隔をあけ戸を開放して実施いたしますので、ぜひ一緒に日蓮聖人への報恩感謝のお題目をお唱えいたしましょう。





宗祖御降誕八百年慶讃法要のご連絡

前号に引き続き御降誕八百年慶讃法要についてご連絡いたします。山形県宗務所主催の法要は、十月二日に酒田市妙玄寺にて寺院関係者のみで開催する運びとなりました。法要の様子はDVDや動画配信にて披露される予定ですので、機会がありましたら皆様と拝見できればと存じます。

また、東北教区主催の慶讃法要は九月五日に青森市蓮華寺にて、同じく寺院関係者のみで開催されます。こちらは当日十一時五十分よりYoutubeによる生配信が予定されておりますので、お時間のある方はご一緒にお参りいただければと存じます。なお、二月十六日に執り行われた誕生寺での慶讃法要もまだYoutubeで視聴することが出来ますので、こちらもよろしければ是非拝見してください。



奉納ライブペインティングのご紹介

宗祖御降誕八百年を記念し、身延山久遠寺にて現代アーティスト・小松美羽さんによる奉納ライブペインティングが執り行われました。身延山の僧侶による読経の中、三連の円形金箔と銀箔をキャンパスに『祈りは天へ　水龍は蓮の華と舞い身延の山に祝福を』と題された作品が描かれました。その様子がYoutubeにライブ映像として公開されております。読経の響き渡る荘厳な雰囲気のなか、小松さんが一心不乱に描く様に圧倒されます。ぜひ一度ご覧いただければと存じます。

また、作品の一般公開などの情報が入りましたら、また皆様にご紹介させていただきます。





令和三年　盂蘭盆施餓鬼法要ご報告

八月一日に盂蘭盆施餓鬼法要を厳修いたしました。本年は全国に先駆けて山形に熱中症警戒アラートが発令され、法要当日も猛暑日に近い暑さとなりましたが、多くの皆様にご参列いただきました。

さて、客殿屋根の水漏れ修理及び下水道工事が終わって間もないのですが、今度は水道管が二か所破損したためその修繕工事を実施しました。

境内にて異常や違和感を感じられたら、ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

また、度重なる修繕工事の協力金として海野林作様より寄進いただきました。誌面を借りて深く御礼申しあげます。

令和三年八月十五日

一金　伍拾萬円也　志　海野林作　殿





《畑榮典上人の法話》（一部抜粋・修正）

今日は「一番好きなお経の言葉」と題してお話します。一口にお経の言葉と言っても、法華経だけでなく開経偈・回向文・御遺文などいくつかの種類があります。ご自宅で朝夕のお勤めをされている方や毎月の信行会でお参りされている方は、もしかしたら思い浮かぶフレーズがあるかもしれません。私も日蓮聖人の御遺文の中にいくつか琴線に触れるお言葉がありますが、その中でも一番を決めるならば次の言葉を選びます。

（真読）
「願以此功徳　普及於一切　我等與衆生　皆共成仏道」
（書き下し文）
「願わくは此の功徳を以て普く一切に及ぼし
我らと衆生と皆共に仏道を成ぜん」
妙法蓮華経巻第三『化城喩品第七』

この言葉を初めて認識したのはお寺の法要でも使用している『日蓮宗信行要典』のお勤め回向文の一文でした。これは自らが修めた善行の功徳が、自分と周囲のすべての人たちにめぐるようにと願う言葉であり、回向文の中でもその締めくくりとして書かれています。私が脱サラしてお寺に戻ってきたときに最初に繰り返し読んだこともあり、この言葉の響きが頭に残っていました。とはいえその当時は真読で読んでいたこともあり、正直その内容までは深く考えが及んでいませんでしたが、改めてこの言葉について理解を深めたのはお盆の棚経のときでした。

前号の寺報れんこんに棚経などのお盆のお参りで読誦する『盂蘭盆御書』の一節を記載しました。その内容を要約すると「目連尊者が法華経を信じ持つ善行の功徳によって、自身だけでなく両親も仏になった。更にはご先祖様、子孫、そして周りの人びとが皆等しく仏になった。」というものです。そして、前述の『日蓮宗信行要典』にも記載されていますがこの盂蘭盆御書には続きがありまして「故に法華経の第三に曰く　願わくは此の功徳を以て普く一切に及ぼし　我らと衆生と皆共に仏道を成ぜん」と続いています。

棚経の際に繰り返しこの言葉を読んでいると、ふと自分のことを振り返りました。弟を亡くしてからのお参りのとき、弟だけの冥福を祈っていたのではないかと。さらには信行会やお彼岸のお参りなどでもそうだったことに気づきました。

このことに気付いてからは考えを改め、お参りのときには弟だけでなく様々な人の平穏を祈ってお参りするように変わってゆきました。そして日々の回忌法要などでは必ず「願以此功徳　普及於一切　我等與衆生　皆共成仏道」の言葉を真読または書き下しで読み上げ、その都度一切衆生が仏様になれるようにとお参りをしております。

本日の盂蘭盆施餓鬼法要においても、各家先祖代々の霊位や新盆に当たる方などの卒塔婆を建立し、御題目をお唱えしておりますが、どうか少しでも構いませんのでそれ以外の方々～コロナ禍で最近会えていない親族・友人・今隣に座っている方々～といった有縁無縁の人びとが皆平穏無事でいられるようにと一緒にお参りいたしましょう。

そして今後も私とお参りする際には、必ずこの言葉を読み上げますので、ご一緒に周りの方々と「皆共に仏道を成ぜん」のお気持ちをもってお参りしていただければ大変うれしく思います。

